

本沢温泉から硫黄岳 ～強風と露天風呂の山旅～

平成 16 年 1 月 12 日

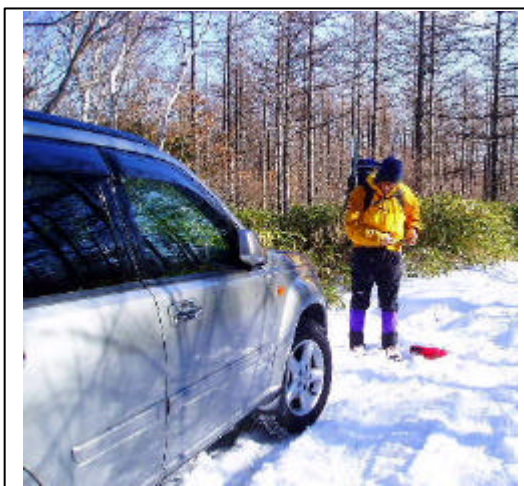
酒井 利直

冬の八ヶ岳に入るのはほぼ 30 年振りである。30 年程前に八ヶ岳に入った時はカラコルム前の合宿で赤岳鉱泉にテントを張り、石尊稜や硫黄岳ジョーゴ沢を登ったことを記憶している。この時は天候が悪くほとんど眺望を得ることができなかった。今回登る硫黄岳の頂上もジョーゴ沢を遡行した時通っているが吹雪のため印象には残っていない。従って冬の硫黄岳は私にとって初めて登るような新鮮な山である。

今回は本沢温泉に一泊して、日本最高所の露天風呂「雲上の湯」を楽しみながら硫黄岳（2,742m）を往復することにした。11 月（唐松岳）、12 月（日光白根山 これはドカ雪で撤退）とテント山行で頑張ってきたが、小屋泊まりでゆっくり行くのもたまには良いだろう。相棒はいつものように会社の同僚の宮本君である。

平成 16 年 1 月 10 日（土曜日） 晴のち雪

午前 6 時西東京市の酒井の自宅を出発。本沢温泉へは中央自動車道経由・上信越自動車道経由ともほぼ同じ距離であるが、スキーに向かう車の混雑を避けるべく中央自動車道を取る。須坂で高速を降り国道 141 号を北上すると、左手に赤岳を盟主として八ヶ岳連峰が次々と姿を見せてくる。八ヶ岳連峰の上に掛かった笠状の雲が少し気に掛かるがまずは好天である。計画では今日は本沢温泉泊まりとし、明日硫黄岳を往復して下山する予定であったが、明日の天気が怪しいので今日硫黄岳を往復してしまおうと急遽予定を変える。そこで本沢林道を車で登ることが出来るところまで登ることにした。本沢林道の入り口は稲子湯の手前 1 km のところで数台車が止まっていた。林道は雪に覆われているが 4WD + 前輪スタッドレスを信じて行けるところまで行くことにする。途中でタクシーとすれ違ったのでひと安心した。林道が尾根をまたぐところ標高 1,600m 地点にかなり大きな駐車場がありここにも数台の車が止まっている。下山時の降雪リスクを考えるとこの辺りに駐車するのが妥当であろうが、更にゲートを目指して突っ込むことにする。しかし後輪がノーマルタイヤのためかゲートの少し下で車輪が空転したので少し戻ったところに駐車した。午前 9 時 50 分である。



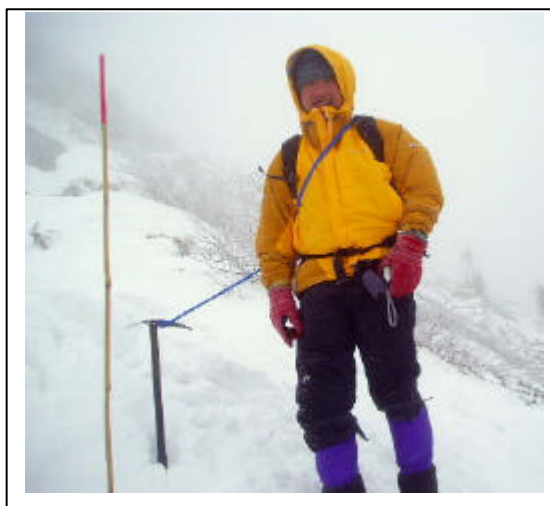
ここから登山開始。積雪は 20 c m 程度で靴のまま歩く。15 分程歩くとゲートに到着。ここに乗用車が 1 台、雪上車が 1 台止まっている。本沢温泉は週末を除いて雪上車で宿泊客を稲子湯からゲートまで運ぶサービスを提供している。さて林道を歩き出してしばらくすると天候が悪化してきた。硫黄岳の辺りはすっかり雪雲に覆われ、林道にもちらほら雪が舞い散らした。

午前 11 時 50 分本沢温泉着。登山客はまだ誰も到着していない。天気は悪いが計画通り硫黄岳を往復することにして、小屋で昼飯を食べることにする。小屋の中はものすごく寒く談話室の石油ストーブを抱えるようにしてカレーをかきこむが、すっかり体が冷え登山再開してもしばらく手足がかじかんでいた。

午後 1 時 本沢小屋出発。午後 2 時 15 分 夏沢峠

午後 2 時 53 分 硫黄岳中腹引返し点

小屋からアイゼンを着けて出発。夏沢峠への道は積雪 50 c m 位だが、先行者の踏み跡に折からの雪が積もりややペースが遅くなる。夏沢峠のこまくさ荘は冬季閉鎖中。夏沢峠から 15 分程歩くと樹林帯を抜け出た。西から雪混じりの猛烈な風が叩く。2 時 53 分このまま烈風の中を登り続けても時間切れになる可能性も高いので引返すことにする。(到達点の写真)



午後 3 時 40 分頃本沢温泉の手前の露天風呂「雲上の湯」に到着。時々雪混じりの突風が

吹く寒い中ではあるが、ちょうど空いていたので湯船に飛び込む。標高 2,150m 日本で一番



標高の高い温泉だ。硫黄の臭いのきつく白濁した温泉だが湯加減はまことに良い。でも湯から上がるには相当体を温める必要がある。かなり浸かったところでタイミンを見て飛び出し一気に着替えて小屋に戻った。本沢温泉の晩御飯は普通の山小屋とは異なり品数が多く中々美味である。食後小屋が貸してくれた豆炭行火を抱いていると眠たく

なり「内風呂」に行く話も何処やらそのまま寝てしまう。

1 月 11 日 (日曜日) 快晴 西の風強い 午前 6 時 本沢温泉で - 12

午前 7 時 50 分 風は強いが快晴だ。アイゼンを着けて本沢温泉を出て夏沢峠を目指す。

午前 9 時夏沢峠着。硫黄岳を目指すグループ、天狗岳を目指すグループ数名が集まって強

風に備え服装を点検している。10分程休憩して硫黄岳アタック開始。15分程登ると樹林帯が切れ、天狗岳が白い頭を見せる。硫黄岳への稜線は風が強クザレ場や岩肌がむき出しのところも多い。強風の堅雪の斜面を選びながらゆっくりと歩を進め午前10時10分 硫黄岳山頂到着。ほぼ夏道並みのペースで到着したことになる。右の写真は硫黄岳の頂上から北を撮ったもので、西天狗岳とその向こうに蓼科山が見える。



南に目をやれば横岳、赤岳、阿弥陀岳などの八ヶ岳の中心山塊がまじかに見える。その向こうには北岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳の南アルプスが見える。山頂は強風が吹き続け、天気は良いものの時折雪煙が舞う。寒いので数枚の写真を撮り終わると一気に夏沢峠まで駆け下る。夏沢峠 = 硫黄岳の間で困難なところはないが、頂上から5分程度下って「こまくさ荘」をすぐ下に見下ろすところが雪の状態によっては少し注意が必要だろう。

(写真中央が赤岳)

夏沢峠でパンを食べ小休止、午前11時15分頃本沢温泉着。

本沢温泉にデポした荷物を持って午前11時37分帰路に着く。本沢温泉の屋根の上の真っ青な空の中に白い天狗岳の稜線が見えて美しい。

帰路は稲子湯に下山する単独行の群馬のFさんという中年の男性と一緒に下山する。Fさんは稲子湯から黒百合ヒュッテに入り今日天狗岳を越えて本沢温泉に来たがややくたびれたというので、僕の車で一緒に稲子湯に行くことにする。

下山路の途中で宮本君と持ってきたショートスキーを履いてみることにする。

ところが石ころまじりの道の上制動をかける斜面の幅もない山道なのでスキーの試みは敢無く失敗に終わる。歩き続けたFさんの方が早くゲートについてしまう有様だ。

ところで本沢温泉では中高年の登山者が目立った。通年営業の小屋が多く、天候も比較的安定し雪が少ない八ヶ岳は中高年の格好の冬山ゲレンデである。

私も今後この山域にもっと足を運びたいものだ。

午後0時50分頃車に到着。3キロ程の雪道を慎重にドライブして稲子湯に到着。車に乗せてあげたFさんが風呂代を出してくれたのには恐縮するが遠慮なくご馳走になる。

帰路は上信越自動車道を使い午後5時20分頃西東京の自宅に帰宅した。

装備その他：

わかんは車に積んでいったが雪の状況から山には持参せず。アイゼンは本沢温泉から使用。ただし夏沢峠まではアイゼンなしでも問題ない。ザイルは念のため 8mm x 20m を持参したが使う場所はなかった。 以上

(参考地図。赤い線が登山ルート)

